

第5期

SIF-Japan定例理事会・定例総会

(内容書類一覧)

理事会議事次第

理事会委任状

総会議事次第

総会委任状

出欠票

第4期 事業・会計報告

第5期 事業計画・予算書(案)

個人会員に係る年会費受け入れ方法の変更について

役員選出資料

運営委員推薦者一覧

特定非営利活動法人

社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)

第 5 期 定例理事会

日時： 平成 20 年 3 月 12 日 (水) 17:15~18:15
場所： 日本政策投資銀行 6 階会議室
在籍： 理事： 13 名 (2 月 26 日現在) * 理事会成立定足数： 5 名

議事次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長選出と議事録署名人選出
4. 定足数の確認
5. 議事 【資料 No.1~12】
 - (1) 第 4 期 平成 19 年度 事業及び収支 報告 【NO.1~6】
 - (2) 第 4 期 平成 19 年度 監査報告
 - (3) 第 5 期 平成 20 年度 事業計画案 審議 【NO.7~8】 (可・否)
 - (4) 第 5 期 平成 20 年度 収支予算案 審議 【NO.9】 (可・否)
 - (5) 会費案 審議 【NO.10】 (可・否)
 - (6) 日本政策投資銀行の会員区分 審議 (可・否)
 - (7) 役員新任(候補)・辞任 報告 【NO.11】
 - (8) 運営委員改選 審議 【NO.12】 (可・否)
6. 議長解任
7. その他(新役員候補者挨拶、質疑応答)
8. 閉会宣言

以 上

書 面 表 決 票

この書類は「書面表決票」としてご利用いただけます。お手数ですが印刷の上、各議事右括弧内の可否いずれかに をつけ、ご本人直筆でご署名の上、事務局まで F A X 又は郵便でご返信くださいますようお願いいたします。

【受付締切：3月7日(金)必着】 SIF-Japan 事務局 FAX:03-5423-6921

ご署名：

法人会員のときは法人名：

第 5 期 定例総会

日時： 平成 20 年 3 月 12 日 (水) 18:30~19:15
場所： 日本政策投資銀行 6 階会議室
在籍： 会員総数： 106 (2 月 27 日現在) * 総会成立定足数： 36

議事次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長選出と議事録署名人選出
4. 定足数の確認
5. 議事 【資料 No.1~11】
 - (1) 第 4 期 平成 19 年度 事業及び収支報告 審議 【NO.1~6】 (可・否)
 - (2) 第 4 期 平成 19 年度 監査報告
 - (3) 第 5 期 平成 20 年度 事業計画及び予算 報告 【NO.7~9】
 - (4) 会費案 報告 【NO.10】
 - (5) 役員選任 審議 【NO.11】 (可・否)
6. 議長解任
7. その他 (新役員就任挨拶、質疑応答ほか)
8. 閉会宣言

以上

書 面 表 決 票

この書類は「書面表決票」としてご利用いただけます。お手数ですが印刷の上、各議事右括弧内の可否いずれかに をつけ、ご本人直筆でご署名の上、事務局まで F A X 又は郵便でご返信くださいますようお願いいたします。

【 受付締切： 3月7日(金)必着 】 SIF-Japan 事務局 FAX:03-5423-6921

ご署名：

法人会員のときは法人名：

ご欠席の場合のみ、

3月7日(金)までにファックスにて **03-5423-6921** へ送信願います。

お願い 議会成立の定足数に満たない場合、法令により3月中に再度開催の必要がありますので、委任状または書面表決票()のご提出にご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

To: SIF-Japan 事務局

社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)
第5期 定例理事会
委任状 / 書面表決票

私は、社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)第5期定例理事会における審議について、

議長に委任します。

理事:()様に委任します。

別紙の通り書面を以って表決します。 「議事次第」をご利用ください。

ご署名:

法人会員のときは法人名:

* 定款第35条

理事会に出席できない理事は、予め通知された事項について、書面をもって表決し、または出席する理事を代理人として表決を委任することができる。

ご欠席の場合のみ、

3月7日(金)までにファックスにて **03-5423-6921** へ送信願います。

お願い 議会成立の定足数に満たない場合、法令により3月中に再度開催の必要がありますので、委任状または書面表決票()のご提出にご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

To: SIF-Japan 事務局

社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)
第5期 定例総会
委任状 / 書面表決票

私は、社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)第5期定例総会における審議について、

議長に委任します。

理事:()様に委任します。

別紙の通り書面を以って表決します。 「議事次第」をご利用ください。

ご署名:

法人会員のときは法人名:

定款第26条

総会に出席できない正会員は、予め通知された事項について、書面をもって表決し、または出席する正会員を代理人として表決を委任することができる。

【 受付切: 3月7日(金) 必着 】 SIF-Japan 事務局 FAX:03-5423-6921

お願い 議会成立の定足数に満たない場合、法令により3月中に再度開催の必要がありますので、ご提出にご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

To : SIF-Japan 事務局

SIF-Japan 第5期 定例理事会・定例総会

出欠票

定例理事会 受付17:00~ / 17:15 ~ 18:15

ご出席

ご欠席

定例総会 受付18:15~ / 18:30 ~ 19:15

ご出席

ご欠席

懇親会 19:30~21:30

ご出席

法人会員の方: 申込者数()名

ご芳名:

法人会員のときは法人名:

【 お問い合わせ 】 SIF-Japan 事務局 東京都港区白金台 3-19-6 白金台ビル 5F
TEL: 03-5423-1512 FAX: 03-5423-6921 Email:contact@sifjapan.org

第4期 事業・会計報告

自 平成 19 年 1 月 1 日
至 平成 19 年 12 月 31 日

事業報告書

財産目録

貸借対照表

収支計算書

収支実績予算対照表

特定非営利活動法人
社会的責任投資フォーラム

平成 19 年度 事業報告書 (1)

平成 19 年 1 月 1 日から 19 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

1 事業の成果

「平成19年度 事業報告書(2)」の通り

2 事業の実施に関する事項

1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の範囲及び 人数	支出額 (単位:円)
SRI 利害関係者の コミュニケーション 促進	勉強会	2/7、4/13、7/6、 8/3、11/27	関東圏	10 名	SRI 関係者又は興味を持つ人。延べ 241 名。	106,180
	シンポジウム	12/4	東京都	10 名	SRI 関係者又は興味を持つ人。約 100 名。	177,226
	ホームページ	通年	東京都	5 名	SRI 関係者又は興味を持つ不特定多 数の人。	297,090
	メールマガジン	月 3~4 回	東京都	2~3 名	SRI 関係者又は興味を持つ人。約 1,300 名。	0
	金融機関啓発・広報	-	-	-	-	0
SRI に関する情報 開示の促進	勉強会	上に同じ				
	シンポジウム	上に同じ				
	ホームページ	上に同じ				
	メールマガジン	上に同じ				
	金融機関啓発・広報	上に同じ				
SRI に関する研 究、 企業評価の枠組 に関する研究	勉強会	上に同じ				
	シンポジウム	上に同じ				
	助成金プロジェクト (コミュニティ投資研究)	通年	全国の調 査対象地 域	10 名	SRI 関係者又は興味を持つ人。計 約 50 名。	794,242
	助成金プロジェクト(法制 化研究とムーブメント) 1	6~12 月	東京都	15 名	SRI 関係者又は興味を持つ不特 定多数。	0
	SRI 概況調査、 SRI 年報の作成	6~12 月	東京都	15 名	SRI 関係者又は興味を持つ不特 定多数。	0
提言及び情報提 供・教育啓発活 動	Students	3/27、5/31	東京都	10 名	SRI に興味を持つ学生ほか、社会 人。約 80 名。	109,624
		7/5	神奈川県	10 名	横浜国立大生約 200 名。	
		10~11 月	関東圏	15 名	不特定多数の大学生。計 700 名。	
	その他イベント	5/22	東京都	10 名	SRI 関係者又は興味を持つ人。計 約 50 名。	93,961
	勉強会	上に同じ				
	シンポジウム	上に同じ				
	金融機関啓発・広報	上に同じ				
	助成プロジェクト(コミュニティ投資)	上に同じ				
	助成プロジェクト(法制化研究)	上に同じ				
						合計

1 助成金獲得できず。

平成 19 年度 事業報告書 (2)

平成 19 年 1 月 1 日から 19 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

1. 平成 19 年度事業報告にあたって

本会の事業活動は、会員による年会費や様々な形のご支援、役員、運営委員、Students による無償の活動によって実施されました。

本年度の会員在籍数と入退会、役員、運営委員、Students 在籍数は以下の通りです。

< 会員 > (在籍者ベース: 期首の数字は、2 年以上会費未納者を含む)

種 別	期 首	入 会	退 会	期 末
金融機関()	3	0	0	3
金融機関()	0	0	0	0
金融機関()	0	0	0	0
金融機関()	0	0	0	0
一般企業	5	0	0	5
公的・中間機関	6	1	2 *1	5
NPO/NGO	4	1	0	5
個 人	75	15	14	76
学 生	10	5	5 *2	10
合 計	103	22	21	104
役 職	期 首	就 任	退 任	期 末
役 員	17	2	4	15
運営委員	20	1	0	21
Students	10	9	5	14

*1 みずぎ監査法人解体により退会、あらたサステナビリティ認証機構で入会。トーマツ環境研究所退会後は H20 年に監査法人トーマツにご入会いただいています。

*2 卒業による学生会員から個人会員への移行が 3 人。

金融機関()...金融ホールディングカンパニー及び、以下()~()以外

金融機関()...地方銀行

金融機関()...投資信託委託・投資顧問・投資会社・信用金庫単独

金融機関()...信用組合

< 法人・団体会員内訳 > * 期末在籍、入会順

- ・ 株式会社クレアン
- ・ 株式会社セブン&アイ・ホールディングス
- ・ 日本政策投資銀行
- ・ 株式会社 YAMATO
- ・ 株式会社大和証券グループ本社
- ・ 国際 NGO ナチュラル・ステップ・インターナショナル日本支部
- ・ 東京海上日動火災保険株式会社
- ・ NPO 法人エティック
- ・ 松下電器産業株式会社
- ・ あずさサステナビリティ株式会社
- ・ 有限責任中間法人自然エネルギー市民基金
- ・ 日産自動車株式会社
- ・ NPO 法人荒川流域ネットワーク
- ・ 財団法人損保ジャパン環境財団
- ・ 社団法人全国労働金庫協会
- ・ 住友信託銀行株式会社
- ・ 株式会社あらたサステナビリティ認証機構
- ・ Carbon Disclosure Project Secretariat

2. 平成 19 年度事業報告

定款に掲げる事業の種類： 「SRI 利害関係者のコミュニケーション促進事業」
「SRI に関する情報開示の促進を行う事業」
「提言及び情報提供・教育啓発活動を行う事業」
「SRI に関する研究を行う事業」

事業のうち、助成金プロジェクト(SRI 推進のための法制化研究)は助成金獲得を前提としていたが、助成金申請ができなかったため、この関係の予算を除く事業支出予算総額は 4,450 千円、同実績は 3,392 千円であった。

(1) 勉強会

事業収入： 254 千円(参加費)
事業支出： 106 千円(講演謝礼、消耗品等)
参加者： 延べ 241 名

開催日、テーマ、講演者、参加者数、収支概算は、9 頁の別表「SIF-Japan セミナー・イベント開催一覧 2007」で一覧にまとめた。

【定例勉強会】

第 19 回：CSR と SRI の掛け橋 - ケーススタディによるアプローチ

『人間を大切に作る企業はなぜ長期的に企業業績の向上が可能になるのか』 ~ シリーズ第 3 回 ~
 「本業によるボランティアが地域と従業員の幸せと強固な経営基盤を作る」

参加者：47 名 場所：東京都渋谷区 エポ会議室

概要：出前講座などのボランティアを通じて食育に取り組むことで、やりがいや会社の存在意義、社員であることの誇りを従業員も実感し、従業員の満足度と強固な経営基盤を作るという取り組みを紹介し、その社会的意義と SRI による評価の可能性を考えた。

講師：大津山厚氏（キッコーマン株式会社経営企画室主幹）

コメンテーター：河口真理子氏（株式会社大和総研経営戦略研究所主任研究員、SIF-J 運営委員）

第 20 回：「SRI事情・入門編 07」

講師：水口剛氏（高崎経済大学経済学部助教授、SIF-J 理事）

参加者：50 名 場所：東京都渋谷区 エポ会議室

概要：SRI の歴史から現状まで、基本的事柄について解説していただいた。「PRI」（責任投資原則）、「カーボン・ディスクロージャープロジェクト」、「赤道原則」などの意義や位置づけにも触れ、また、昨年 12 月に公表した「責任ある投資のための企業評価基準」の意図と内容についても解説していただいた。

第 21 回：SRI 最新事情 実践編 SRI を巡る二つの議論 シリーズ第 1 回

『責任ある投資のための企業評価基準 「理念」から運用現場の「実践」と「リターン」に至るまで』

講師：

岡本享二氏（ブレイメン・コンサルティング株式会社 代表取締役社長）

蛭川修一氏（明治ドレスナー・アセットマネジメント株式会社 調査部 リサーチ・アナリスト）

参加者：61 名 場所：東京都渋谷区 エポ会議室

概要：社会・環境・倫理面での問題意識に重点をおく立場と、経済的リターンに関心の重点をおく立場とに分類されるとされる現在の SRI の議論に焦点を当て、2 回シリーズで開催した。

第 1 回は、前者の立場で SRI 研究者や SRI 運用の第一人者等が参加した「責任投資評価基準委員会」による「責任ある投資のための企業評価基準」の理念と、それを運用の現場で具体的にどのように展開するかについてお話を伺った。非常に好評で、満員のため申し込みを締め切った。

第 22 回：SRI 最新事情 実践編 SRI を巡る二つの議論 シリーズ第 2 回

『SRI のメインSTREAM 化を目指す運用手法 「実践」・「リターン」を通じた「理念」の追求』

講師：金井司氏（住友信託銀行株式会社 企画部 CSR 担当部長兼年金運用部副部長）

コメンテーター：足達英一郎氏（株式会社日本総合研究所 創発戦略センター上席主任研究員）

参加者：50 名 場所：東京都渋谷区 エポ会議室

概要：シリーズ第 2 回では、現場の運用担当者、責任者の立場から SRI 運用について実践・リターンから理念へとつながっていく過程を伺い、SRI 評価機関としての立場から理念・実践・リターンの関係性・重要性についてコメントいただいた。

第 23 回：CSR と SRI の掛け橋 - ケーススタディによるアプローチ

『人間を大切に作る企業はなぜ長期的に企業業績の向上が可能になるのか』 ~ シリーズ第 4 回 ~

『「環境」と「生産性」と「人間性」 - 全てを向上させる工場の具体的取り組み』

講師：原口氏（株式会社リコー御殿場事業所生産部部長）

コメンテーター：河口真理子氏（株式会社大和総研経営戦略研究所主任研究員、SIF-J 運営委員）

参加者： 33 名 場所： 東京都渋谷区 エポ会議室

概要： 「CSRとSRIの架け橋」シリーズ第4回は、従業員を大切にしている企業は、従業員が働きやすいため生産性が向上し、企業価値も上がるという視点での定例勉強会のシリーズとして、(株)リコー御殿場事業所の取り組みとその具体的な成果について紹介し、その社会的意義とSRIによる評価の可能性を考えた。

(2) シンポジウム開催

テーマ：「広がりを見せる SRI 最前線」

事業収入： 86 千円(参加費)

事業支出： 177 千円(講演謝礼、資料印刷費等)

参加者： 102 名(会員 26、非会員 36、学生 11、プレス1、招待 12、講師・スタッフ 16)

参加者構成：(アンケート回答ベース、回答者数 36、複数回答)

個人投資家 2 名、機関投資家 10 名、IR・CSR・環境等担当者 9 名、一般市民 3 名、
NGO/NPO2 名、研究者 6 名、その他 11 名

概要： 「SRI年報の内容公表」、「コミュニティ投資研究会の中間報告」に加えて、SRI普及の鍵とみられている「年金基金等におけるSRI導入の展望と可能性」というテーマにつき、SIF-Japan 理事でもある首藤恵早稲田大学大学院教授から、最近の調査結果を中心に報告していただき、年金運用担当者を招いてパネルディスカッションを行った。非常に好評をいただき、満席となった。

講演1：「SRI年報の解説」

講師： 河口真理子氏 (株式会社大和総研経営戦略研究所主任研究員、SIF-J 運営委員)

講演2：「コミュニティ投資研究会中間報告」

講師： 新谷大輔氏 (株式会社三井物産戦略研究所研究員、SIF-J 運営委員)

講演3：「年金基金等におけるSRI導入の展望と可能性」～最近のアンケート調査結果から～

講師： 首藤恵氏 (早稲田大学大学院教授、SIF-J 理事)

パネルディスカッション：「年金運用におけるSRI定着の課題と展望」

パネリスト：

加藤正裕氏 (三菱UFJ信託銀行投資企画部主任調査役)

首藤恵氏 (早稲田大学大学院教授、SIF-J 理事)

堀池正臣氏 (KDDI 企業年金基金インベストメントオフィサー)

向畑康志氏 (住友信託銀行株式運用部シニア・マネージャー)

山本卓氏 (企業年金連合会年金運用部株式グループリーダー、チーフ・ファンドマネージャー)

コーディネーター：

河口真理子氏 (株式会社大和総研経営戦略研究所主任研究員、SIF-J 運営委員)

(3) イベント開催

事業収入： 0 円

事業支出： 94 千円

FTSE 来日講演 『国際的な責任投資の特徴・傾向』

概要： SRI の国際的なインデックスとして知られる FTSE4Good を担当する、FTSE Responsible Investment Unit の責任者 William Oulton 氏を迎え、国際的な責任投資の特徴や動向など、特に欧州における最新の SRI の動向を伺った。FTSE は英国の金融新聞であるファイナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所の合弁会社で、国際的な株価指数である FTSE100 の開発などで知られているが、今回の来日は同社が「気候変動選定基準」を発表することが主目的とのことでもあり、欧州における地球温暖化問題への取り組みなどについても伺った。

参加者： 53 名

(4) ホームページ運営

事業収入： 0 円

事業支出： 297 千円（維持更新費、サーバーレンタル費）

< 19 年度更新・変更点 >

- ・ HP 維持更新業務を専任非常勤職員が行うことに変更したことにより、更新作業がスムーズにできるようになった。
- ・ 「SRI 年報 2007」を公開。
- ・ 年報のデータ編である「公募 SRI 投信一覧」の四半期ごとの更新。
- ・ SIF-Japan 入会案内の更新。
- ・ 英語版入会案内の作成、掲載。
- ・ 更新作業の効率化と、年報の公表を受けて、HP リニューアルに向けて準備開始。

(5) メールマガジン発行

事業収入： 0 円

事業支出： 0 円

配信数： 期末現在 約 1,340 通

昨年末より 200 通近い増加。「SRI・マスコミ・レポート」の一般読者への配信を 11 月以降会員限定に戻したことにより、数名の方にご入会いただいた。

< SRI・マスコミ・レポート >

新聞などマスコミの SRI に関する時事情報を集め、解説を付した「SRI・マスコミ・レポート」を、運営委員のボランティアによる執筆で隔週発行した。18 年度 12 号(7 月 12 日発行)より、会員だけでなく広く啓発に役立てたいとの執筆者の意向で月刊メールマガジンの読者にも配信していたが、11 月から会員限定に戻した。その後、数名の方にご入会いただいた。

< 月刊メールマガジン >

運営委員による SRI についてのコラムと SIF-Japan の活動レポート、SRI に関する話題等を紹介する「SIF-Japan メールマガジン」を月 1 回発行、また全国の SRI や CSR に関連するセミナー、イベント情報を集めた情報版を別途不定期に事務局編集で発行。最新号はホームページに常時掲載している。

(6) 金融機関啓発・広報

事業収入: 0 円
 事業支出: 0 円 (注: イベント事業として 83 千円支出)

5 月 22 日 FTSE 来日記念講演を実施。SRI 関係者の参加が多数あった。

(7) 助成金プロジェクト(法制化研究)

事業収入: 0 円
 事業支出: 0 円

「欧州のサステナビリティ社会形成法体制・支援制度整備状況等の調査研究」に対する助成金申請はできなかったが、会員を対象にメンバーを募り、12 名でプロジェクトを発足。分担して各国の状況を調査研究。20 年度に報告書を作成するとともに、助成金が獲得できれば現地調査を実施する予定。

(8) 助成金プロジェクト(コミュニティ投資研究)

助成金収入: 480 千円(三井物産環境基金) } (前年度からの繰越金 400 千円あり)
 自己資金: 120 千円
 事業収入: 0 円
 事業支出: 794 千円 (セミナー講師謝礼、交通費、視察旅費等)

三井物産環境基金より「コミュニティ投資研究会の開催と事業モデルの提言」(2 年間計画) に対し 18 年度に受けた助成金で実施。7 月に課題抽出ワークショップ。9 月に地域ファンド、地域金融機

関、NPO バンク等の実態調査開始。9/29 にワークショップ「荒川流域ネットワークの試みに学ぶ」開催。10 月に米国コミュニティ投資機関 NFF を招いてのシンポジウム共催、12 月にかけてコミュニティ投資事例ヒアリング研究調査を実施した。調査地域は岩手県久慈市・葛巻町、富山県富山市・黒部市、宮崎県宮崎市・鹿児島県始良町、滋賀県近江八幡市・高島市、北海道帯広市、旭川市。12 月に SIF-Japan シンポジウムにて中間報告を行った。

なお、余剰金(未消化分)として 206 千円あったが、基金分と自己資金分を按分して 165 千円を基金に返還。

(9) SRI 概況調査

事業収入： 0 円
事業支出： 0 円

日本で初めての「SRI 年報」作成に向けて、準備段階として、「SRI 投信」の範疇を確定させるため、SRI 定義チームを発足。SIF-Japan 会員にも意見募集をしたが、多様な意見があり、集約するのは困難につき、年報作成の前提として「SIF-Japan による SRI 投信の基準」を定めた。その後、年報チームを発足させ年報の執筆に当たった。年報の内容は、「日本の SRI 前史」、「日本の公募 SRI 投信について」、「日本の機関投資家の SRI」、「日本のコミュニティ投資」、「日本の株主行動」、「SRI 国際比較と日本の SRI 市場について」の全 6 章と、SRI データ編から成る。データ編については、投信運用会社とモーニングスター社にデータ提供の協力をいただいた。作成した年報は「日本 SRI 年報 2007」として 12 月にシンポジウムで発表。ホームページにも公開した。その後、様々な反響があり、マスコミ数社からの取材を受け、環境省からも高い評価を受けている。SRI データ編に関しては、四半期ごとにウェブのデータを更新していく予定(2007 年 12 月末データは更新済み)。製本、英訳については 20 年度事業で対応することとしている。

(10) Students

事業収入： 102 千円 (大和証券グループ本社より金融教育セミナー費用として)
事業支出： 110 千円 (金融教育セミナー講師料、アンケート印刷代他)

セミナー「大学生発！これからの社会を創る金融教育～「社会的責任投資」から見た金融教育のあり方～」

実施日：3 月 27 日 会場：株式会社大和証券グループ本社 本店ビル

パネリスト：

長友英資氏 (東京証券取引所常務取締役)

伊藤宏一氏 (千葉商科大学大学院教授)

河口真理子氏 (株式会社大和総研経営戦略研究所主任研究員、SIF-J 運営委員)

西村朱美氏 (伊勢市立五十鈴中学校教諭)

小野島茉莉氏 (SIF-Japan Students 代表、慶應義塾大学総合政策学部 3 年)

コーディネーター:

福吉隆行氏 (SIF-Japan Students、東京大学農学部 4 年)

概要: 大和証券グループ本社にご後援頂き、「金融」の持つ多様な役割や影響と、それに対する「金融教育」のあり方を考えることで、SRI の理念を同世代の学生に伝えていくことを狙いとしたセミナーを開催。金融教育の現状等についてご紹介いただいた後、参加者同士でディスカッションをし、金融教育のあるべき姿を考えた。

勉強会「学生による学生のための小さな勉強会」

実施日: 5 月 31 日 会場: 高輪区民センター

概要: SIF-Japan Students と外部の学生とのコミュニケーションを強化すべく、SRI の普及に対する課題と SRI をいかに広げていくべきかについて考える勉強会を開催した。SIF-Japan 発行のメルマガ登録者である学生を対象とし 5 名の参加者があり、うち 3 名が Students メンバーとなった。

横浜国立大学出張授業

実施日: 7 月 5 日 会場: 横浜国立大学

概要: Students メンバーの知人である大学講師の依頼を受け、横浜国立大学の学生 200 名ほどが履修する経済学の授業内にて SRI に関するレクチャーを実施した。昨年に続き 2 回目。実施後のアンケートでは約 6 割の参加者が満足であることを示した。

アンケート調査「大学生の SRI 意識調査アンケート」

概要: 学生の株式投資や SRI に対する意識・関心を明らかにするとともに、アンケートを通じて回答者への SRI の認知度を高めることを狙いとしたアンケートを企画した。

10 月～11 月の約 1 ヶ月間、首都圏の大学の授業内で配布し、700 名以上の回答を得た。集計・分析をして、H20 年 2 月に報告書を HP に掲載した。

以上

平成20年度 定例理事会・定例総会資料 / No. 2
 平成19年度('07) セミナー・イベント開催一覧

参加数は登壇者・スタッフを含む

(単位:千円)

開催日	テーマ	講師、登壇者	会場	参加人数	会/非会	収入	支出	
定例勉強会								
19	2007/2/7	CSRとSRIの掛け橋 - ケーススタディによるアプローチ 「人間を大切にできる企業はなぜ長期的に企業業績の向上が可能になるのか」～ 第シリーズ第4回～ 「本業によるボランティアが地域と従業員の幸せと強固な経営基盤を作る」	大津山 厚氏 (キッコーマン株式会社経営企画室主幹) 河口 真理子氏 (株式会社大和総研 経営戦略研究所 主任研究員、SIF-J運営委員)	工博会議室 (渋谷区)	47	15/32	43	1
20	2007/4/13	SRI事情・入門編 70	水口 剛氏 (高崎経済大学/助教授、SIF-J理事)	工博会議室 (渋谷区)	50	9/41	75	21
21	2007/7/6	「SRI最新事情 実践編 - SRIを巡る二つの議論」 *2回シリーズ*【シリーズ第1回】 「責任ある投資のための企業評価基準 「理念」から運用現場の「実践」と「リターン」に至るまで」	岡本 享二氏 (ブレイメン・コンサルティング株式会社 代表取締役社長) 蛭川 修一氏 (明治ドレッシング・アセットマネジメント株式会社 調査部 リサーチ・アナリスト)	工博会議室 (渋谷区)	61	21/40	61	47
22	2007/8/3	「SRI最新事情 実践編 - SRIを巡る二つの議論」 【シリーズ第2回】 「SRIのメインストリーム化を目指す運用手法 「実践」・「リターン」を通じた「理念」の追求」	金井 司氏 (住友信託銀行株式会社 企画部 CSR担当部長兼年金運用部副部長) 足達 英一郎氏 (株式会社日本総合研究所 創発戦略センター 席主任研究員)	工博会議室 (渋谷区)	50	19/31	51	26
23	2007/11/27	CSRとSRIの掛け橋 - ケーススタディによるアプローチ 「(世代を超えて)人間を大切にできる企業はなぜ長期的に企業業績の向上が可能になるのか」 ～ シリーズ第4回～ 「環境」と「生産性」と「人間性」 - 全てを向上させる工場の具体的取り組み	原口 紀昭氏 (株式会社リコー 御殿場事業所 生産部 部長) 河口 真理子氏 (株式会社大和総研 経営戦略研究所 主任研究員、SIF-J運営委員)	工博会議室 (渋谷区)	33	13/20	24	12

回は設立以来の通算回数

その他イベント								
S t u d e n t s	2007/3/27	SIF-Japan Students企画 学生発！これからの社会を創る金融教育～ 「社会的責任投資(SRI)」から見た金融教育のあり方～	長友 英資氏 (東京証券取引所 常務取締役) 伊藤 宏一氏 (千葉商科大学大学院教授 ボラーノ・コンサルティング代表) 西村 朱美氏 (伊勢市立五十鈴中学校教諭) 河口 真理子氏 (大和総研 経営戦略研究部 主任研究員、SIF-J運営委員) 小野島 茉莉氏 (SIF-Japan Students代表 慶応義塾大学総合政策学部3年)	大和証券 グループ本社本店ビル (千代田区)	72	9/63	102	102
そ の 他	2007/5/22	FTSE来日講演 「国際的な責任投資の特徴・傾向」	Mr. William Oulton (FTSE Group Head of Responsible Investment Unit)	ティーズプラザ246(港区)	53	18/35	0	83

助成金プロジェクト(コミュニティ投資研究会)								
	2007/9/29	「荒川流域ネットワークの試みに学ぶ」	川村ヒサオ氏 (NPO法人荒川流域ネットワーク 副代表理事) 相根 昭典氏 (株式会社 アンビエックス)	総評会館 (千代田区)	21	11/10	0	240
	2007/10/5～6	「コミュニティ投資とは～米国コミュニティ投資機関 NFF (Nonprofit Finance Fund) に学ぶ～」 (CAC社会起業家研究ネットワークとの共催)	樽見 弘紀氏 (北海学園大学法学部教授) 瀧澤 信氏 (株式会社サステナブル・インバスター 代表取締役) 吉田 信雄氏 (神奈川県 商工労働部)	アメリカン センター (港区)	24	3/21	0	106

シンポジウム								
	2007/12/4	「広がりを見せるSRI最前線」	河口 真理子氏 (株式会社大和総研 経営戦略研究所 主任研究員、SIF-J運営委員) 新谷 大輔氏 (株式会社三井物産戦略研究所国際情報部海外情報室研究員、SIF-J運営委員) 首藤 恵氏 (早稲田大学大学院教授、SIF-J理事) 加藤 正裕氏 (三菱UFJ信託銀行 投資企画部 主任調査役) 堀池 正臣氏 (KDDI企業年金基金 インベストメントオフィサー) 向畑 康志氏 (住友信託銀行 株式運用部 シニア・マネージャー) 山本 卓氏 (企業年金連合会 年金運用部株式グループ リーダー チーフ・ファンドマネージャー)	日本政策 投資銀行 (千代田区)	102	31/71	86	177

19 年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

平成 19 年 12 月 31 日現在

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

科目・摘要	金額 (単位:円)		
資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 (現金手許有高)	8,304		
普通預金 (三井住友銀行赤坂支店)	387,336		
普通預金 (三菱東京 UFJ 銀行赤坂見附支店)	3,925,583		
貯蔵品 書籍@1,008 円*2 冊	2,016		
流動資産合計		4,323,239	
2 固定資産			
什器備品 (パソコン 2 台)	36,066		
固定資産合計		36,066	
資産合計			4,359,305
負債の部			
1 流動負債			
未払金 (佐藤会計事務所)	105,000		
未払金 (三井物産環境基金)	164,785		
預り金 (職員に対する源泉所得税)	22,581		
預り金 (報酬に対する源泉所得税)	3,493		
預り金 (職員に対する社会保険料)	23,206		
預り金 (職員に対する労働保険)	12,079		
預り金 (職員に対する住民税)	2,500		
流動負債合計		333,644	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			333,644
正味財産			4,025,661

19 年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 19 年 12 月 31 日現在

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

科 目	金 額 (単位: 円)		
資産の部			
1 流動資産			
現金	8,304		
普通預金	4,312,919		
貯蔵品	2,016		
流動資産合計		4,323,239	
2 固定資産			
什器備品	36,066		
固定資産合計		36,066	
資産合計			4,359,305
負債の部			
1 流動負債			
未払金	269,785		
預り金	63,859		
流動負債合計		333,644	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			333,644
正味財産の部			
前期繰越正味財産		4,756,087	
当期正味財産増加額(減少額)		730,426	
正味財産合計			4,025,661
負債及び正味財産合計			4,359,305

19 年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

科 目	金 額 (単位:円)	
経常収入の部		
1 会費収入		
金融機関会費	1,500,000	
一般法人会費	1,500,000	
公的・中間機関会費	800,000	
NPO・NGO 会費	40,000	
個人会費	870,000	
学生会費	45,000	4,755,000
2 事業収入		
勉強会活動収入	254,100	
シンポジウム活動収入	86,000	
学生部会活動収入	102,043	442,143
3 助成金収入		
助成事業収入	315,215	315,215
4 雑収入		
受取利息収入	6,988	6,988
経常収入合計		5,519,346
経常支出の部		
1 事業費		
勉強会活動費用	106,180	
シンポジウム活動費用	177,226	
その他イベント活動費用	93,961	
ホームページ運営活動費用	297,090	
学生部会活動費用	109,624	
助成事業支出	794,242	
給料手当(事業)	1,814,298	3,392,621
2 管理費		
給料手当	1,070,834	
法定福利費	363,738	
通信費	78,924	
旅費交通費	306,990	
接待交際費	19,179	
会議費	14,148	
研修費	8,000	
事務用消耗品費	59,235	
備品消耗品費	101,937	
新聞図書費	1,890	
印刷経費	36,000	
地代家賃	600,000	
租税公課	6,440	
支払手数料	56,730	
業務委託費	105,000	2,829,045
経常支出合計		6,221,666

経常収支差額			702,320
その他資金収入の部			
1 その他資金収入	0	0	
その他資金収入合計			0
その他資金支出の部			
1 その他資金支出	0	0	
その他資金支出合計			0
当期収支差額			702,320
前期繰越収支差額			4,691,915
次期繰越収支差額			3,989,595
(正味財産増減の部)			
正味財産増加の部			
1 資産増加額		0	
2 負債減少額		0	
増加額合計			0
正味財産減少の部			
1 資産減少額			
当期収支差額(再掲)		702,320	
什器備品減価償却額		28,106	
2 負債増加額		0	
減少額合計			730,426
当期正味財産増加額			730,426
前期繰越正味財産額			4,756,087
当期正味財産合計			4,025,661

平成19年度特定非営利活動に係る事業会計収支実績(予算書対照表)

平成19年1月1日から平成19年12月31日まで

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

(単位:円)

科目	細目	19年度予算額	同実績	増減	備考
I 経常収入の部					
1.会費収入		5,320,000	4,755,000	565,000	会員増強ならず。
正会員会費収入	金融機関会員(単位:10万×1~5口/5会員) 1	2,000,000	1,500,000	500,000	
()内は、期末在籍ベース会員数	一般法人会員(単位:10万×3口/5会員)	1,800,000	1,600,000	200,000	
	公的・中間機関会員(単位:10万×1口/5会員)	600,000	700,000	100,000	
	NPO/NGO会員(単位:1万×1口/5会員)	60,000	40,000	20,000	
	個人会員(単位:1万×1口、76会員)	800,000	870,000	70,000	
	学生会員(単位:5千×1口、10会員)	60,000	45,000	15,000	
2.事業収入		520,000	442,143	77,857	
	勉強会活動収入	200,000	254,100	54,100	
	シンポジウム活動収入	200,000	86,000	114,000	
	コミュニティ投資研究活動収入	120,000	0	120,000	
	学生会活動収入	0	102,043	102,043	
3.助成金収入		4,480,000	315,215	4,164,785	
助成金	地球環境基金	4,000,000	0	4,000,000	助成金申請できず。
	三井物産環境基金	480,000	315,215	164,785	余剰金返還(注1)
4.雑収入		0	6,988	6,988	
	受取利息、雑収入	0	6,988	6,988	
経常収入合計(A)		10,320,000	5,519,346	4,800,654	
II 経常支出の部					
1.事業費		8,620,000	3,392,621	5,227,379	
SRI研究	勉強会活動費用	200,000	106,180	93,820	
情報開示促進	シンポジウム活動費用	1,000,000	177,226	822,774	日本政策投資銀行でのシンポは会場費無償。
コミュニケーション促進	その他イベント活動費用	50,000	93,961	43,961	
提言・情報提供・教育啓発	ホームページ運営費用	600,000	297,090	302,910	6月以降外部委託を止め事務局で対応。
	メールマガジン運営費用	0	0	0	
	助成金プロジェクト	4,170,000	0	4,170,000	助成金申請できず。ただし文献調査は実施中。
	法制化研究とムーブメント(助成)	4,000,000	0	4,000,000	
	(自己資金)	170,000	0	170,000	
	助成金プロジェクト	600,000	794,242	194,242	(注1)前年度からの繰越400,230円 - 本年度不足194,242円 = 余剰金(未消化分)205,988円。これを基金と自己資金で按分して164,785円を基金に返還。
	コミュニティ投資研究(三井物産環境基金助成)	480,000	635,375	155,375	
	(自己資金)	120,000	158,867	38,867	
	金融機関啓発、広報活動	0	0	0	
	学生会活動費用	100,000	109,624	9,624	
	SRI概況調査	100,000	0	100,000	SRI年報は作成したが英訳、製本は次年度で対応。
	給料手当(事業)	1,600,000	1,814,298	214,298	人件費のうち60%強を見込む(注2)。
	予備費	200,000	0	200,000	
2.管理費		2,600,000	2,829,045	229,045	(注2)19年度予算では管理費として420万円を計上し、うち給料については事務局運営費の中に260万円を見込んで一括して計上していたが、事業費に係る給料は管理費と区分して事業費に計上することが望ましいことから、これを実績に見合っ
事務局運営費	給料手当	1,000,000	1,070,834	70,834	て60%強の160万円を事業費、100万円を管理費に振り分け
	法定福利費	300,000	363,738	63,738	当初予算に計上。あわせその他の項目も当初予算の見込みと
	旅費交通費	200,000	306,990	106,990	して細分化のうえ計上し、それぞれ実績と対比させた。
	地代家賃	600,000	600,000	0	
	支払手数料、業務委託費	100,000	161,730	61,730	会計事務所委託費10万5千円
	通信・印刷費、備品等	400,000	325,753	74,247	
経常支出合計(B)		11,220,000	6,221,666	4,998,334	
当期収支差額(A)-(B)		900,000	702,320	197,680	
前期繰越収支差額		4,691,915	4,691,915	0	
次期繰越収支差額		3,791,915	3,989,595	197,680	

- 1 金融機関種別会費 ()金融ホールディングカンパニー及び以下 ~ 以外 5口以上
()地方銀行 3口以上
()投資信託委託、投資顧問、投資会社、信用金庫単独 2口以上
()信用組合 1口以上

第5期 事業計画・予算書（案）

自 平成 20 年 1 月 1 日
至 平成 20 年 12 月 31 日

特定非営利活動法人
社会的責任投資フォーラム

平成 20 年度 事業計画書（案）

平成 20 年 1 月 1 日から 20 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

1 事業実施の方針

1) 事業内容

本会の事業は、特定非営利活動に係る事業のみを対象とし、次に挙げる基本活動を主体として実施する。

- (1) SRI（社会的責任投資）の利害関係者のコミュニケーションの促進に関する事業
- (2) SRIに関する情報開示の促進を行う事業
- (3) SRIに関する研究を行う事業
- (4) 企業評価の枠組みに関する研究を行う事業
- (5) 提言及び情報提供・教育啓発活動を行う事業

2 事業の実施に関する事項

1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施予定時期	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込額 (単位:円)
SRI 利害関係者の コミュニケーション 促進	勉強会	8～10回	関東圏、関西圏	10名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	200,000
	シンポジウム	年1回	東京都	10名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	300,000
	コミュニティ投資研究	通年	東京都他国内の 調査対象地域	10名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	100,000
	その他イベント	年1～2回	関東圏	10～20名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	50,000
	ホームページ	通年	東京都	5～10名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	300,000
	メールマガジン	月3～5回 発行	東京都	2～3名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	0
SRI に関する情報 開示の促進	勉強会	上に同じ				
	シンポジウム	上に同じ				
	ホームページ	上に同じ				
	メールマガジン	上に同じ				
	金融機関啓発・広報	年1～2回	関東圏	10名	SRI 関係者及び金融機関	100,000
SRI に関する研究 企業評価の枠組み に関する研究	勉強会	上に同じ				
	シンポジウム	上に同じ				
	コミュニティ投資	上に同じ				
	助成金プロジェクト(法制 化研究とムーブメント) 1	春～秋	欧州、東京都	10～15名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	5,170,000
	SRI 概況調査、SRI 年報の 英訳・製本	通年	東京都	10名	SRI 関係者又は興味を持つ 不特定多数の人	400,000
提言及び情報提 供・教育啓発活動	勉強会、シンポジウム	上に同じ				
	金融機関啓発・広報	上に同じ				
	助成金プロジェクト	上に同じ				
	Students	通年	関東圏	20～30名	地域非限定、不特定多数	100,000
	その他イベント	上に同じ				
各事業推進に係る給料手当						1,800,000
合計						8,520,000

1) 助成金プロジェクト（法制化研究とムーブメント）の支出は、助成金獲得を前提としている。

平成20年度 年間事業計画案 詳細

定款に定めた事業区分

区分	内容
	12/13 運営委員会 概略検討
A	コミュニケーション促進事業
B	情報開示の促進を行う事業
C	SRIに関する研究を行う事業
D	企業評価の枠組みに関する研究を行う事業
E	提言及び活動を行う事業

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム(SIF-Japan)

事業区分	事業名	具体的な内容	運営管理	実施予定時期・回数	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込額(単位:円)
A,B,C	勉強会運営	定例勉強会の開催 ・SRIに関心のある会員・非会員を対象に、情報交換・意見交換を行なう。毎回、SRIへの造詣の深い講師を招き参加者のSRIに関する知識を高め、交流の場とする。 ・SRIの基本入門コース、専門コース、パネルディスカッションなど。	鷹羽吉田	8~10回	東京都、関西圏	10名	SRI関係者又は興味を持つ不特定多数の人	200,000
E	シンポジウム運営	シンポジウムの開催 ・SRI普及・拡大の足がかりとなるよう広範なテーマでより幅広い層、多くの人々を集め、SRIの認知を大きく高める。 ・詳細未定		年1回	東京都	10名	SRI関係者又は興味を持つ不特定多数の人	300,000
C,E	コミュニティ投資研究	日本におけるコミュニティ投資の意義、現状、資金調達方法等に関する調査、研究、レポート発表 ・コミュニティ投資の理論的展開を研究し、その意味を発信する ・年1~2回ワークショップを開催	新谷野村	通年	東京都および国内の調査対象地域	10名	地域非限定、不特定多数	100,000
A,E	イベント運営	・SRIへの理解を示しやすい環境などのイベントに参加し、広く一般を対象として、SRIの概念を普及、啓発する。 ・詳細未定		年1~2回	東京都および近郊	10~20名	SRI関係者又は興味を持つ不特定多数の人	50,000
B,E	ホームページ運営	リニューアル ・日本におけるSRIの概要、最新情報等について幅広く多くの人々に中立的な立場から情報を提供する。 ・現在の情報コンテンツの維持、更新、拡充。学生による新たなコンテンツ新設。	鷹羽事務局	通年	東京都	10名	地域非限定、不特定多数	300,000
A,B	メールマガジン運営	月刊メールマガジンの発行 ・SRIに関するあらゆる情報を無料で頒布することで、SRIに関心を持つ方の裾野を広げ、持続的な情報提供を行う。 ・SIF-Japanの活動のお知らせ、オピニオンリーダーによるSRIに関する雑感、SRIに関する文献情報、関連イベント情報、SIF-Japanの活動報告などをメールによって無料で広く発信する。	事務局	月1回	東京都	1~3名	地域非限定、不特定多数	
A,B,C,E		SRI・マスコミ・レポートの発行 ・SRIに関する情報の提供 ・会員向けに無料メールマガジンを隔週ペースで配信し、SRIに関する時事情勢のレポートとそれらに対するSRI研究専門家のコメントを提供する。	山本	隔週	東京都	1~2名	SRI関係者又は興味を持つ不特定多数の人	0
E	金融機関啓発	SRI有識者会議、金融機関との懇談会 ・SIF-Japanの存在価値向上のため、金融機関の方とのネットワークを強化し、より実質的なSRI普及活動に寄与する。 ・現在SRIを企画・運用しているキープレーヤー(有識者)の方々に参集いただき、日本におけるSRIの現状や将来性について議論いただき、日本で最も実質的なSRIの話ができる場を提供する。そこで得られた知見を事務局でまとめ、今後の日本におけるSRI普及に寄与するためにHP等で紹介する。	後藤河口山本相馬	年1~2回	関東圏	10名	SRI関係者及び金融機関	100,000
B,C,E	SRI推進のための法制化研究とムーブメント	欧州のサステナビリティ社会形成法体制等調査・研究 ・持続可能な社会と経済の好循環実現のための基盤整備。欧州政府、欧州主要国の法制度の整備状況、支援策などを調査研究し日本での循環型社会形成に資する。 ・調査分析チームを立ち上げ、課題、調査項目検討ワークショップ開催の後、現地調査。報告書作成、報告シンポジウムの開催。	後藤	春~秋	欧州、東京都	10~15名	SRI関係者又は興味を持つ不特定多数の人	
C,E		SRIに関するアンケート調査 ・政策提言、金融機関等への提言のためのデータ収集 ・メルマガ、WEBを利用してSRIに関するアンケート調査及び分析研究を行う	鷹羽	年1~2回	全国	10名	SRIに関心を持つ不特定多数	5,170,000
C	SRI概況調査	「日本SRI年報2007」の英訳および製本、データのメンテナンス ・海外との情報交換 ・日本におけるSRIの現状把握、情報提供	山本事務局	通年	東京都	10名	SRI関係者または関心を持つ不特定多数の人	400,000
A,B,C,E	Students	大学生による大学生など入門者向けのセミナー、WEBコンテンツなどでの啓発活動 ・学生など入門者向けの啓発活動 ・Studentsメンバーによる自主勉強会、一般学生向けセミナー開催、WEBコンテンツ制作		通年	関東圏	10~30名	地域非限定、不特定多数	100,000

平成20年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書案

平成20年1月1日から平成20年12月31日まで

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

(単位:円)

科目	細目	19年度予算額	同実績	20年度予算額	備考
I 経常収入の部					
1. 会費収入		5,320,000	4,755,000	6,120,000	
正会員会費収入	金融機関会員(単位:10万×1~5口/3会員) 1	2,000,000	1,500,000	2,500,000	会員増強
()内は、期末在籍ベース	一般法人会員(単位:10万×3口/5会員)	1,800,000	1,500,000	1,800,000	会員増強
	公的・中間機関会員(単位:10万×1口/5会員)	600,000	800,000	700,000	
	NPO/NGO会員(単位:1万×1口/5会員)	60,000	40,000	60,000	
	個人会員(単位:1万×1口/76会員)	800,000	870,000	1,000,000	会員増強
	学生会員(単位:5千×1口/10会員)	60,000	45,000	60,000	
2. 事業収入		520,000	442,143	450,000	
	勉強会活動	200,000	254,100	200,000	
	シンポジウム活動	200,000	86,000	200,000	
	コミュニティ投資研究活動	120,000	0	50,000	
	学生会活動	0	102,043	0	
3. 助成金収入		4,480,000	315,215	4,930,000	
助成金	地球環境基金	4,000,000	0	4,930,000	助成金申請
	三井物産環境基金	480,000	315,215	0	
4. 雑収入		0	6,988	7,000	
	受取利息、雑収入	0	6,988	7,000	
経常収入合計(A)		10,320,000	5,519,346	11,507,000	
II 経常支出の部					
1. 事業費		8,620,000	3,392,621	8,520,000	
SRI研究	勉強会活動	200,000	106,180	200,000	
情報開示促進	シンポジウム活動	1,000,000	177,226	300,000	
コミュニケーション促進	その他イベント活動	50,000	93,961	50,000	
提言・情報提供・教育啓発等	ホームページ運営	600,000	297,090	300,000	ホームページのリニューアル
	メールマガジン運営	0	0	0	
	助成金プロジェクト	4,170,000	0	5,170,000	
	法制化研究とムーブメント(助成)	4,000,000	0	4,930,000	地球環境基金に助成金申請
	(自己資金)	170,000	0	240,000	
	助成金プロジェクト	600,000	794,242	100,000	
	コミュニティ投資研究(三井物産環境基金助成)	480,000	635,375	0	
	(自己資金)	120,000	158,867	100,000	ワークショップを年1~2回開催
	金融機関啓発、広報活動	0	0	100,000	金融機関啓発活動
	学生会活動	100,000	109,624	100,000	
	SRI概況調査	100,000	0	400,000	年報の英訳30万、製本10万
	給料手当(事業)	1,600,000	1,814,298	1,800,000	常勤者1名・非常勤者2名等の給料の60%
	予備費	200,000	0	0	
2. 管理費		2,600,000	2,829,045	3,070,000	
事務局運営費	給料手当	1,000,000	1,070,834	1,200,000	常勤者1名・非常勤者2名等の給料の40%
	法定福利費	300,000	363,738	300,000	
	旅費交通費	200,000	306,990	300,000	
	地代家賃	600,000	600,000	600,000	
	支払手数料、業務委託費	100,000	161,730	320,000	会計事務所委託費24万
	通信・印刷・備品等	400,000	325,753	350,000	
経常支出合計(B)		11,220,000	6,221,666	11,590,000	
当期収支差額(A)-(B)		900,000	702,320	83,000	
前期繰越収支差額		4,691,915	4,691,915	3,989,595	
次期繰越収支差額		3,791,915	3,989,595	3,906,595	

1:金融機関種別会費 ()金融ホールディングカンパニー及び以下 ~ 以外 5口以上
 ()地方銀行 3口以上
 ()投資信託委託、投資顧問、投資会社、信用金庫単独 2口以上
 ()信用組合 1口以上

個人会員に係る年会費受け入れ方法の変更について

特定非営利活動法人
社会的責任投資フォーラム (SIF-Japan)

当フォーラムの会費については、従来入会月に向こう 1 年分を前払いにて受け入れ、以後 1 年毎に請求、受け入れを行ってきたが、この方法では毎月のように事務が発生しその負担が大きい。

ついてはこの事務の効率化を図るため、個人会員の会費の受け入れを平成 21 年より一律「毎年 1 月」とするよう改定し、その移行措置として平成 20 年分の会費を月割計算（10 円未満切捨て）で下記の通りとしたい。

なお本件対象は個人会員(2/27 現在 79 名)とし、法人その他の会員は対象外とする。

記

1. 既存会員

入会月(請求月)	受入額	月割り額
1 月	10,000 円	10,000 円
2 月	9,160 円	9,166 円
3 月	8,330 円	8,333 円
4 月	7,500 円	7,500 円
5 月	6,660 円	6,666 円
6 月	5,830 円	5,833 円
7 月	5,000 円	5,000 円
8 月	4,160 円	4,166 円
9 月	3,330 円	3,333 円
10 月	2,500 円	2,500 円
11 月	1,660 円	1,666 円
12 月	830 円	833 円

* 考え方

月割計算とするが、10 円未満は切捨てとする。

10 月以降の入会月会員には極力平成 21 年分とあわせ納入いただくよう要請する。

2. 新規会員

新規会員の会費については、初年度は次の通りとし、翌年度以降一律毎年 1 月に 10,000 円を受け入れる。

1 月～6 月加入者	10,000 円
7 月～12 月加入者	5,000 円

以 上

役員選出・辞任

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

候補 (任期: 平成20年4月1日～平成22年3月31日)

役職	氏名(各50音順・敬称略)	所属	報酬	備考
理事	青木 修三		無	新
理事	足達 英一郎	株式会社日本総合研究所	無	新
理事	河口 真理子	株式会社大和総研	無	新
監事	魚住 隆太	あずさサステナビリティ株式会社	無	新

辞任

役職	氏名(各50音順・敬称略)	所属	報酬	備考
会長	星野 進保	向社会性研究所	無	H19年12月末辞任
監事	中村 義人	東洋大学経営学部教授	無	H20年3月末辞任

(ご参考)

現理事・監事 (任期: 平成19年4月1日～平成21年3月31日)

役職	氏名(各50音順・敬称略)	所属	報酬	備考
理事	秋山 をね	株式会社インテグレックス	無	
理事	稲岡 稔	株式会社セブン&アイ・ホールディングス	無	
理事	川合 アユム	イーディーコントライブ株式会社	無	
理事	木内 孝	NPO法人フューチャー500	無	
理事	後藤 敏彦	環境監査研究会	無	
理事	首藤 恵	早稲田大学大学院	無	
理事	藺田 綾子	株式会社クレアン	無	
理事	原 良也	株式会社大和証券グループ本社	無	
理事	菱田 賀夫	住友信託銀行株式会社	無	
理事	菱山 隆二	NGO企業行動研究センター	無	
理事	水口 剛	高崎経済大学	無	
理事	宮城 治男	NPO法人エティック	無	
理事	柳 正憲	日本政策投資銀行	無	
監事	寺田 良二	株式会社あらたサステナビリティ認証機構	無	
監事	中村 義人	東洋大学経営学部教授	無	H20年3月末辞任

個人が所属する組織が会員とは限りません。

運営委員 推薦者一覧表

特定非営利活動法人 社会的責任投資フォーラム

(敬称略・50音順)

氏 名	所 属	備考
内田 宏樹	株式会社CSR経営研究所	再
小野島 茉莉		新
加とう 正法	社会経営システム研究所、NPO法人 洗心洞大学 理事	再
金谷 扇	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	再
河口 真理子	株式会社大和総研	再
小樽 雅章	向社会性研究所	再
後藤 敏彦	環境監査研究会	再
新谷 大輔	株式会社三井物産戦略研究所	再
菅沼 裕明	東京海上日動火災保険株式会社	再
相馬 宏充	Innovest Strategic Value Advisors	再
藺田 綾子	株式会社クレアン	再
鷹羽 美奈子	インスティテューショナルシェアホルダーサービシーズ株式会社	再
野田 健太郎	日本政策投資銀行	再
野村 恭子	あらた監査法人	再
松本 美奈	エリアリンク株式会社	再
物江 陽子	株式会社大和総研	再
山崎 明美	日本シェアホルダーサービス株式会社 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社より出向)	再
山本 利明		再
吉田 哲朗	株式会社 しんきん信託銀行	再
以上19名		再